

# 葛城市ラボラトリー・シティ構想

平成 27 年 9 月 15 日

葛 城 市

本格的な人口減少社会の到来という歴史の分水嶺ともいえる局面を前に、低コストで質の高いサービスを提供することは我々行政に課せられた使命である。地方自治体がこの使命を果たし、新たな時代を切り拓くには、行政運営における民間企業等の知見の活用をより発展・深化させることが必要である。

葛城市は、約 37,000 人という全国的にみて中程度の人口規模を有するとともに、高齢化率をはじめとする人口構造が全国とほぼ同水準にあるなど、面積 33.72km<sup>2</sup> のコンパクトな市に平均的な「日本の縮図」としての性質を持つ。また、奈良県北西部に位置する本市は大阪都市圏へのアクセスが 30 分程度という好立地にあるなど、様々な地理的好条件を有する。

これらの特色を生かしたまちづくりを通じて、市民の生活の質の向上と地方創生の理念を具体化するための中核となる戦略として、この度「葛城市ラボラトリー・シティ構想」を提唱する。

## <葛城市ラボラトリー・シティ構想>

### ① 最新の技術やサービスの導入を通じた住民サービスの向上

市をモニタリングやマーケティング、実証等を行う「研究の場（ラボラトリー）」として、必要となる基盤の整備を行ったうえで、民間企業や研究機関等の様々な主体に広く開放し、情報通信技術（ICT）をはじめとする最新の技術やサービスを導入することで、市民の生活の質の向上と地方創生を図るとともに、異業種間連携による新たな価値の創造を図る。

### ② 「データサイエンス」の考えに基づく効果検証

事業の実施に当たっては、住民への十分な説明を行い、住民の理解を得ながらデータの収集を図るとともに、データに基づく数量的思考により課題を解決に導く、いわゆる「データサイエンス」の考え方にに基づき、ビッグデータ解析やオープンデータの利用等の手法を活用して効果の検証と成果の把握に努める。

### ③ 成果（葛城モデル）の積極的な展開

事業の成果については、政府や県、先駆的な取組を行う他の地方自治体との連携も視野に入れながら、市において「葛城モデル」として対外的な発信を行う等、市がプロモーターとなって「葛城モデル」の普及展開を積極的に進めていく。